

21. 悪性腫瘍の血清学的診断における血清フェリチン測定の意味

熊田 卓 中野 哲
北村 公男 綿引 元
武田 功 井本 正己
浜野 博次

(大垣市民病院・2内)

蜂須賀喜多男

(同・外)

鶴田 初男 金森 勇雄
(同・特殊放射線センター)

佐々木常雄

(名大・放科)

大垣市民病院では昭和53年9月より188例の消化器系疾患に Ferritin を測定した。1) 健常者では男性が 59 ± 40 ng/ml, 女性が 27 ± 24 ng/ml と前者が有意に高く, これらより正常上限値を 150 ng/ml に設置した。2) 各疾患の Ferritin 値は良性疾患では, 肝硬変 178 ± 168 , 肝炎 $1,396 \pm 1,960$ であった。悪性疾患では, Hepatoma 321 ± 215 , 転移性肝癌 $599 \pm 1,095$, 胃癌 231 ± 323 の値を示した。3) 肝疾患において, 特に肝炎では, Ferritin は GOT, Fe と良好な正の相関を示したが, 一方肝硬変, Hepatoma ではその関係はみられなかった。4) Hepatoma での Ferritin と AFP の関係として, AFP 値が 10^4 ng/ml 以上の場合, 両者には有意の負の相関が成立し ($P < 0.05$), 10^4 ng/ml 以上の場合に正の相関傾向を示した。5) Ferritin と CT による Hepatoma の大きさの関係をみると, 大きいもの程 Ferritin 値が高い傾向を示した。6) Hepatoma 切除例では AFP は手術後急激に減少したが, Ferritin は逆に増加していた。以上より Ferritin Hepatoma において, AFP とは別の第2の血清学的 marke になりうると考えられた。

22. 血清 ferritin の測定に関する基礎的検討

金森 勇雄 鶴田 初男

(大垣市民病院・特殊放射線センター)

中野 哲 熊田 卓

(同・2内)

佐々木常雄

(名大・放科)

近年血清中の ferritin が RIA 法などにより測定可能となり, われわれも第1アイソトープ研究所の RIA ferritin kit を用いて基礎的検討を実施した。

結論: 1) 標準曲線 標準曲線よりほぼ信頼の持てる検出可能な血中 ferritin 濃度は $10 \sim 300$ ng/ml であった。2) incubation time 1st incubation は 15 時間, 2nd incubation は 23 時間に平衡状態に入った。3) 希釈試験 希釈濃度と測定値との間には極めて良好な相関関係を示した。($r = 0.99$) 4) 回収率試験 回収率は $97\% \sim 108\%$ の間にあり極めて良好な相関関係を示した。($r = 0.99$) 5) 再現性 intra-assay variance での CV は $1.0 \sim 5.2\%$ の間に, inter-assay variance での CV は $6.5 \sim 9.7\%$ の間にあり, 何れも良好であった。

以上 ferritin kit について種々の基礎的検討を加えた結果, この kit を用いた標準曲線の感度, 精度も, 得られた ferritin 値の再現性も良好で, 臨床的に十分応用し得る kit であると思われる。